令和八年度　斑鳩の里を詠む　塔の里吟行」

大賞	鵤一羽視野の限りを威嚇せり　南　清風

【山下幸典先生　選】

特選	相輪に行く秋留め法隆寺	上田　光子
入選	秋日差す太子偲びし堂威風	和田　唯美子
〃	秋日傘傾け見やる法隆寺	中山　れいこ
〃	鵤一羽視野の限りを威嚇せり	南　清風
〃	最古の塔そびゆ御寺や秋高し	安部　周子
〃	ぬくもりを束ねて貯めて藁ぼっち	岡本　へちま
〃	露の世や永遠に伏目の思惟菩薩	田子　美地子
〃	風鐸へほのと古代の秋の風	加藤　ちえ
〃	三塔の恵み誉れの稲を刈る	若林　友子
〃	お地蔵に柿を供へて斑鳩路	宮本　こぼ
〃	コスモスに風の道あり色のあり	雑賀　みどり

令和八年度　斑鳩の里を詠む　塔の里吟行」

【古賀しぐれ先生　選】

特選	柿たわわ俄俳人子規偲ぶ	中嶋　規子
入選	身に入むや虚子の斑鳩物語	須谷　友美子
〃	仏舎利と住処を共にする小鳥	宮元　美惠子
〃	夢殿は神秘の伽藍小鳥来る	藤井　ケイ子
〃	天平へ抜ける青空秋桜	奥野　千草
〃	斑鳩の風といふ風秋ざくら	小井川　和子
〃	法輪寺門前柿の直売所	岡本　康
〃	コスモスの風吹き抜けて心柱	藤田　奈千巴
〃	意志堅き太子の法や新松子	梶田　高清
〃	朝寒や法隆寺より箒の音	白石　翠
〃	三塔の千歳の一日小鳥来る	奥野　千草

令和八年度　斑鳩の里を詠む　塔の里吟行」

【正岡　明先生　選】

特選	鵤一羽視野の限りを威嚇せり	南　清風
入選	草の実にまみれ少女のスニーカー	山村　千惠子
〃	花よりも影の揺れゐる秋桜	松田　吉上
〃	柿をむく佳人と供に聴く鐘よ	関　洋子
〃	コスモスやよそ見をこらへ運転す	江刺　峯子
〃	側溝に瑠璃を零して蛍草	河辺　さち子
〃	法起寺の庭師の会話大和弁	吉川　幸宏
〃	曼珠沙華空を焦がして風と消ゆ	宮本　こぼ
〃	秋天へうねる老楠臥竜めく	河合　佐和子
〃	露の世や永遠に伏目の思惟菩薩	田子　美地子
〃	さわやかに百姓ですと言いにけり	高垣　宏子

令和八年度　斑鳩の里を詠む　塔の里吟行」

【和田　桃先生　選】

特選	相輪の鎌高々と豊の秋	近藤　和草
入選	鐘一打一打の余音秋の声	丸尾　義男
〃	飛機雲の宝輪抜けて秋空へ	吉澤　裕子
〃	斑鳩の深き懐ホ句の秋	青木　敬子
〃	列柱の美しき回廊秋澄めり	浅間　二晁
〃	老一人無花果畑の農作業	山村　千恵子
〃	朝寒や法隆寺より箒の音	白石　翠
〃	鵙一羽視野の限りを威嚇せり	南　清風
〃	軽トラの柿は一盛り三百円	関　洋子
〃	秋天へうねる老楠臥竜めく	河合　佐和子
〃	ぬくもりを束ねて貯めて藁ぼっち	岡本　へちま

令和八年度　斑鳩の里を詠む　塔の里吟行」

【倉橋みどり先生　選　】

特選	秋空を大風呂敷に法隆寺	中畑　文子
入選	花よりも影の揺れゐる秋桜	松田　吉上
〃	色鳥来斑鳩に尽く絹の道	森　美江
〃	指先に思惟解く菩薩身にぞ入む	堀田　ますみ
〃	秋暑し仁王目を剥く法隆寺	平尾　美智男
〃	己が影捉へむと追ふ秋の蝶	三谷　啓子
〃	一穢なき空の青さよ塔の秋	本谷　眞治郎
〃	色鳥や子規も八一も訪ね来る	髙橋　良子
〃	さわやかに百姓ですと言いにけり	高垣　宏子
〃	コスモス野塔は古代の宇宙基地	古賀　しぐれ
〃	子規の鐘鳴れば生まれる秋の空	山下　幸典